



みんながつながり 夢を育てる学校に

国立二小だより

平成30年11月30日

国立市立国立第二小学校

校長 小林 理人

「子供が主役」「ほっとできる学級、学校」をめざした笑顔いっぱいの11月 ～ふれあい月間を通して～

校長 小林 理人

今年のふれあい月間では「ほっとできる学級、学校をめざそう」を合言葉にしました。

子供たちは、みんなで気持ちよく生活できるように生活の仕方や言葉がけを工夫しました。そして、合言葉を意識し、様々な取組を行いました。

保健委員会

登校時に昇降口に立ち、あいさつ運動を行いました。元気なあいさつ「おはようございます」という大きな声が学校中に響き渡り、気持ちのよい一日が始まりました。

図書委員会

読書旬間に読書の楽しさをみんなに伝えました。休み時間の読み聞かせや、集会で行った本の紹介など、二小のみんなが夢中になる本を手にするきっかけをつくってくれました。図書室前に読書の記録として掲示された「本の木」は、借りた本の数を示したシールで一杯になりました。

代表委員会

みんなが友達と仲良く遊ぶことができるように、休み時間を活用し「二松祭」を行いました。委員会で計画した紙飛行機大会やフリースロー大会にはたくさんの子供たちが集まり、温かい言葉をかけ合いながら楽しい時間を過ごしていました。

これは、子供たちが主体的に活動をし、子供たち自身の生活を楽しんだり、学校を明るくしたりした取組の一例です。このように『ふれあい月間』では、子供たちがその主旨を理解し、笑顔いっぱいの「子供が主役の二小」になりました。

「温かい言葉」を増やす取組

今年度は、卒業生が託した「明るいあいさつ」「温かい言葉」が響き合う学校を、子供たちとともに目指しています。

ふれあい月間では、各学級で心を傷つける「ちくちく言葉」をなくし、みんなが優しくなる「ふわふわ言葉」を積極的に増やす取組をしました。温かい言葉がけが優しい行動を促し、更に温かい言葉かけにつながる「ふわふわ言葉の効果」をみんなで実感しました。

また、学校生活アンケートによって明らかになった子供たちの不安、いじめについては、教職員全体で共有し、児童に寄り添う姿勢と、いじめは絶対に許されないという毅然とした指導で、一つ一つを丁寧に解消に向けて進めています。

12月は**成長**という言葉を意識して2学期を締めくくります。

先週(二松ウィーク)に行った個人面談でも話題になりましたが、一人一人の**成長**を子供たちや保護者の皆様とともに確かめ合い、2学期の**成長**として子供たちに伝えていきたいと思えます。そして、2学期に得た成就感や達成感を、新しい年を迎え、学年のまとめとなる3学期につなげていきます。